

この夏のみつば栽培から学ぶこと!

今年3月農薬取締法改正にともない従来のように農薬が使えない状況下で、初めての夏を迎えました。うまく対応できた人、そうでなかった人の違いがはっきりとしました。振り返って考えてみますとうまく切り抜けた人には、やはり成功要

因がありました。そんなところを整理してみました。作目はみつばですが、その他作目にも共通する点も多くあると考えています。農薬に依存した生産体系からの脱出は、従来と同じ方法ではなく、やり方を変えていくという姿勢が大事にな

ってきています。うまく乗り切りきるためには、若干の設備投資も必要となってきますが、これを怠ると置いてきぼりになってしまいます。最適解を探すお手伝いをさせていただきますので弊社宛ご相談ください。(営業 神谷高裕)

項目	工程	成否分岐点	こうすればうまくいった
種子管理 方法紹介別刷があります。別途ご要求ください。	種洗い	今年病気を出した事例の多くが種洗い不十分のケースでした。従来の農薬活用型の場合は、それほど問題にならなかった種洗いですが、農薬が使えない作型ですと病気防止のためには、十分な種洗いが不可欠となってきました。	プロペラ羽根付電動ドリルなどによって白い種がちらちら見えるまで十分な洗浄を実施。古新聞紙などに広げ、2~3日自然乾燥。よく乾燥させた後、紙袋・布袋に入れて冷蔵保存。ビニール袋は使用しない。
	育苗養生	育苗期間の温度管理が重要になってきました。ハウス内の育苗棚に放置しているだけの場合と、水温管理された育苗ベッドでの育苗方式とでは明らかな差異が認められました。あまグリーン水耕みつば部会では、過去から井水冷却された育苗専用ベットを使用する方式を採用されていますが、上記の種洗いとの併用で一部菌核病発生を除いて種子消毒なしで過ごせました。	井水を流す育苗専用ベットを準備し、播種した育苗箱を浮かせて育苗する。播種直後は発泡スチロールなどをベットにかぶせ遮光も実施する。この際苗の上部から葉水を絶対かけないことを守ること。この方式だと育苗箱内の温度が高温にならない、水位が一定化するなどの利点がある。
施設管理	育苗箱殺菌	育苗箱まで熱殺菌されている事例は少ないと思いますが、見落としていないでしょうか。これを実施されている農家は、順調でした。	パネルフレッシャーで、パネルと同様に温湯殺菌されているY農園では夏も種洗い、育苗養生併用で病気発生はなかった。
	パネル殺菌 パネル交換	何もしていないという事例は少ないと思います。実施していても処理温度、処理時間の不足で殺菌効果不十分から病気発生を招いたという事例もありました。必要不可欠な処理です。	年数経過しているもので、PP製パネルに置換したが、根の入り込みがない、殺菌処理温度も高くとれるなどで効果的。今後さらに効果がでてくるのではと導入農家の声。
	ベットシート 交換 熱交換パイプSUS化	これを機会に交換したいと例年以上に注文をいただきました。長年の蓄積から菌類が潜んでいることは考えられ、寿命時期よりは早い交換を決断することも有用です。	熱交換パイプに黒パイプ利用されている方も多くありますが、この際SUS化実施し、夏場養液温度をより低くすることができ順調になったと喜ばれた例もあります。
	ネット設置	ハウス内に外部からの害虫侵入を防止するためにはネット設置は効果的です。「よとう」などは4mmネットで、ほとんど防止できています。	シルバーなどには、4mm目では対応できないが、「よとう」は防止できることがわかりました。効果はあります。
	配管更新	管路中に従来使用していた農薬成分が蓄積しており、生産品の分析で農薬成分が検出されるというケースもありました。費用支出も大きくなり全面改装は困難でしょうが、その他の不都合解消とあわせて改装をとの事例もありました。長く使っている、不具合があるなどのケースでは決断するのの一考です。	ベット水位が安定しないなどのこともあって、この際配管更新を実施したが、生育も順調になり実施してよかったとの声をいただいた例もいくつかありました。適正な根圏環境を確保すると、生育も順調となり、病気発生を抑制できます。
栽培管理	養液更新	できーくん導入で、生育が順調になり病害発生も少なくなったという事例がほとんどですが、中にはそうでもないという事例発生もありました。これらは、他要因の混在によるものと判断しており、それらのつづしが必要です。	EC/PHの機械による制御だけでは健全な生育確保は困難です。小まめな更新作業が求められます。「できーくん」はこの機能を自動でやってくれます。健全生育確保に頼りになる機器だとの評価です。
	肥料(M5号)の活用	原水に鉄分がある、高濃度で栽培しているなどの理由で微量要素肥料(M5号)を使用しないで農薬で病気を止めていた作型では、農薬使用できなくなり、今年調子が悪くなってしまったケースが多発しました。微量要素効用の再認識が必要です。	対処法として微量要素肥料(M5号)を使用すると、葉色・艶・根などが改善され健全な姿になってきたと喜ばれました。含有するCu分などの抗菌作用、Fe分豊富(5~6ppm)などの効用と考えています。